

## ガイダンス

### 今日の内容：

1. 実験の予定
2. 教科書
3. 参考図書
4. 成績の評価
5. 配付資料
6. 担当者（レポートの提出先）
7. その他の注意

### 1. 実験の予定

10月04日（水）	第1回目	ガイダンス・班分け
10月11日（水）	第2回目	音環境の測定（その1・説明）
10月18日（水）	第3回目	音環境の測定（その2・測定の実施）
10月25日（水）	第4回目	音環境の測定（その3・補足説明）
11月01日（水）	第5回目	光環境の測定（その1・説明）
11月08日（木）		出張（シンポジウムに参加・発表）のため休講
11月15日（水）	第6回目	光環境の測定（その2・測定の実施）
11月22日（水）	第7回目	光環境の測定（その3・補足説明）
11月29日（水）	第8回目	空気環境の測定（その1・説明）
12月06日（水）	第9回目	空気環境の測定（その2・測定の実施）
12月13日（水）	第10回目	空気環境の測定（その3・補足説明）
12月20日（水）	第11回目	熱環境の測定（その1・説明）
01月10日（水）	第12回目	熱環境の測定（その2・測定の実施）
01月17日（水）	第13回目	熱環境の測定（その2・測定の実施）

音環境：道路交通騒音の測定，室内騒音の測定など

光環境：照度の測定，輝度の測定など

熱環境：温湿度の測定，壁の表面温度の測定，グローブ温度の測定など

空気環境：風速の測定，空気汚染の測定など

原則として3週間で一つの項目の実験を行います。

一つの項目ごとに実験レポートを作成してください。レポートの締め切りは、原則として、（その3・補足説明）を行った週の金曜日までとします。例えば、「音環境の測定」の場合は、10月27日（金）が締め切りとなります。その後、レポートを採点（4段階程度）し、次の項目の（その1・説明）で返却し、講評する予定です。

レポートの作成の際には、（その3・補足説明）を行う水曜日から締め切りの金曜日の3日間の時間があると考えずに、（その2・測定の実施）を行う水曜日から翌週の金曜日までの10日間の時間をかけると考えてください。したがって、（その3・補足説明）の実施までには、ある程度までレポートの作成が進んでいることが要求されます。

上記の予定は、皆さんと相談したり、検討したりした結果、変更になることも考えられますので、欠席した際になどには、十分注意してください。変更がある場合は、できるだけ速やかに掲示するようにします。

実験に使用する部屋は、原則として設備システム実験室（環境共生学部棟旧棟（生活科学部棟）の実験実習棟2階）です。

実験は、いくつかの班に分かれて行います。無断での欠席は、他の班員に人に迷惑をかけることになるので、やむを得ず欠席する場合は、他の班員もしくは担当者などに事前に連絡してください。また、他の班員に迷惑がかかることから、履修を途中で放棄することは原則として認めません。

この実験は、その日の進み具合によっては、時間を大きく延長することもあります。特に、（その2・測定の実施）では、事前に実験の方法を理解し、様々な段取りができていないと、時間内に実験を終えることができません。授業時間が始まると同時に実験に取りかかることができるように、事前に班員同士で十分に打合せを行って下さい。なお、時間の延長があることに十分注意し、その後の予定を組んでください。

## 2. 教科書

- 1) 環境工学教科書研究会編著「環境工学教科書 第二版」(彰国社, 3,675 円, 「環境設備原論」(2年生・後期担当)教科書)
- 2) 日本建築学会編「建築環境工学実験用教材 I 環境測定演習編」(日本建築学会, 1,890 円)

新しい項目に入る前には、上記の教科書や2年生の際に配布した配付資料を見直し、復習をしてから臨んでください。例年、授業中の説明だけでは充分理解できないとの声があります。しかし、この実験は、2年生・後期担当の「環境設備原論」の内容を理解していることを、ある程度前提として進めています。「環境設備原論」の内容が理解できていない人は、今一度勉強し直してください。なお、「環境設備原論」を履修していない人は、担当者まで相談してください。

## 3. 参考図書

- 1) 建築設備学教科書研究会編著「建築設備学教科書 新訂版」(彰国社, 3,675 円, 「環境設備システム学」(3年生・前期担当)教科書)
- 2) 日本建築学会編「建築環境工学実験用教材 II 建築設備計測演習編」(日本建築学会, 1,470 円)

また、その他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せるなどして、適宜紹介します。レポート作成の際などに参考にしてください。

## 4. 成績の評価

- 1) 成績は出席点とレポートを総合して、評価します。実験ですので、当然ですが、定期試験はありません。
- 2) 出席点が約5～6割、レポートが約4～5割として評価します。
- 3) レポートの提出が一つでも不足している場合は、原則として60点未満の評価とします。

## 5. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jikkenn.html/kyojikkenn.html>

## 6. 担当者（レポートの提出先）

質問・レポートの提出先は、以下の担当者まで。

助教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階西南角

電話：096-383-2929（内線492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南側中央付近

電話：096-383-2929（内線482）

e-mail：yasunami@pu-kumamoto.ac.jp

なお、質問は、以下のTAでも可。ただし、レポートの提出は不可。

環境共生学研究科1年・柏木史成（環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階・西研究室  
院生室）

## 7. その他の注意

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、この実験は、出席し、実験に参加することが前提の授業ですので、できれば我慢して出席するようにしてください。
- ・講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）のオフィスアワーは木曜日5時限（16:10～17:40）ですが、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はありません。
- ・講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくない

と思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。

- ・これまでに、「皮肉的な言い回しが良くない」、「人としてひねくれている」、「主観的すぎる意見があった」などの意見がありました。担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、上記の様に感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、レポート提出の際にその旨を指摘して下さい。できるかぎり、改善するよう努力します。